

令和6年度

教育委員会の事務執行に関する評価

(令和5年度対象)

令和6年12月5日

みやこ町教育委員会

目次

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動	2
II 教育委員会が管理・執行する事務	4
III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	9
1 子どもの教育環境の充実	10
2 社会教育の充実	24
3 スポーツの推進	34
4 地域文化の継承と振興	40
外部評価委員会の所見	46

教育委員会の事務執行に関する評価の概要

1. 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成20年4月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、自己点検および評価を行い、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

みやこ町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことにより、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

このことを踏まえて、令和5年度の教育委員会活動を

I 「教育委員会の活動」

II 「教育委員会が管理・執行する事務」

III 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

の3点から、教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評価判断基準		
A 達成できた	B おおむね達成できた	C 達成できなかった

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育委員会会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	A (A)	○ 定例会を11回、臨時会を2回実施した。	
	② 教育委員会会議の運営上の工夫	A (A)	○ 教育委員会会議における案件については、事務局から提案し、学校教育課長及び生涯学習課長が説明し、詳細については、担当係長等から補足説明を行った。	詳細な説明が十分と行われていることを評価したい。
(2) 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	① 教育委員会会議の傍聴者の状況	A (A)	○ 傍聴者1名（延人数）ホームページに開催日時を掲載し、傍聴を促している。	
	② 議事録の公開、広報・公聴活動の状況	A (A)	○ 議事録は、情報公開条例に基づいて、ホームページに掲載して公表している。	
(3) 教育委員の自己研鑽	① 研修会への参加状況	A (A)	○ 教育委員を対象にした研修会に参加した。 ・市町村教育委員会教育委員 等人権教育研修会 5/11	

評 価 項 目	指 標	評価	点 検 ・ 評 価	外 部 評 価
			・九州地区市町村教育委員会研修大会 8/3～8/4 ・市町村教育委員会教育委員研修会 11/10 ・京築地区教育委員等研修会 1/23	
(4) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	① 学校訪問	A (A)	○ 入学式、卒業式、運動会等の学校行事に参加した。	今後も引き続き、学校訪問を通して児童生徒や教職員に元気を与えて欲しい。
	② 所管施設の訪問	A (A)	○ 中央公民館で開催された、英語スピーチ大会に参加した。 ○ サン・グレートみやこで開催された二十歳の集いに参加した。	

Ⅱ 教育委員会が管理・執行する事務

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	学校への確実な説明の実施	A (A)	○ みやこ町の教育施策について、定期開催される校長会にて説明した。また随時、各学校に説明、資料を配布した。	
(2) 教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること	規則等の制定、改正等	A (A)	○ 教育委員会で規則等の制定を審査し、制定又は改廃した。 ・ みやこ町いじめ問題対策連絡協議会等運営規則の制定 ・ みやこ町教育員会の公印に関する規則の一部を改正する規則の制定 ・ みやこ町立学校の通学区域に関する規則の一部改正する規則の制定 ・ みやこ町立小学校の校区に関する取扱要綱の一部を改正する訓令の制定 ・ みやこ町図書館再編整備検討委員会設置要綱を廃止する告示の制定 ・ みやこ町学習等供用施設規則の一部を改正する規則の制定	状況の変化に応じ速やかに規則等の整備が必要であるので、今後も継続して行ってほしい。

評 価 項 目	指 標	評価	点 検 ・ 評 価	外 部 評 価
			・みやこ町学習等供用施設使用料の減免に関する規則を廃止する規則の制定 ・みやこ町学習施設遊び場要綱を廃止する告示の制定 ・みやこ町合理的配慮アドバイザー等設置要綱の廃止 ・みやこ町小中学校教職員の過重労働対策としての面接指導実施要領の制定 ・みやこ町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定 ・みやこ町教育委員会処務規則の一部を改正する規則の制定 ・機構改革に伴う関係要綱の整備に関する告示の制定 ・機構改革に伴う関係要綱及び関係規定の整備に関する訓令の制定	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
			・みやこ町立学校共同実施組織運営及び事務処理規程を廃止する訓令の制定 ・みやこ町図書館規則の一部を改正する規則の制定	
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	新年度予算の審議	A (A)	○ 新年度予算について報告を受けた。	
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	学校の設置及び廃止	A (一)	○ 豊津地区小学校の再編整備に伴い、豊津小学校及び祓郷小学校を廃止し、新たに豊津小学校を設置した。	小学校の再編に伴う説明を丁寧に行って地域住民に対する理解を促していることを評価した。
(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	人事の内申	A (A)	○ 管理職人事、人事異動に係る内申を行った。	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(6) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事	各委員の委嘱	A (A)	○ 職務の遂行が期待できる適任者の選定に努めた。 ・ 学校評議員 ・ 外部評価委員 ・ 学校医 ・ 学校 I C T 教育推進委員 ・ みやこ町通学路安全対策推進協議会委員 ・ みやこ町学校給食センター運営委員 ・ みやこ町学校給食物資選定委員 ・ みやこ町学校給食献立委員 ・ みやこ町社会教育委員 ・ みやこ町公民館運営審議会委員 ・ みやこ町歴史民俗博物館運営委員会委員 ・ みやこ町歴史民俗博物館専門委員会委員 ・ みやこ町スポーツ推進委員会委員 ・ みやこ町図書館協議会委員 ・ みやこ町子ども読書活動推進計画審議会委員	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
			・みやこ町図書館協議会委員 ・みやこ町子ども読書活動推進計画審議会委員	
(7) 教科用図書の採択の決定に関すること	教科書採択	A (一)	○ 小学校教科用図書の採択決定を行った。	
(8) 通学区域を設定し、又は変更すること		A (一)	○ 豊津地区小学校の再編整備に伴い、祓郷小学校区域を豊津小学校区域に統合し、豊津中学校の通学区域を統合した豊津小学校区域に変更した。	統合により遠距離となる通学に配慮したスクールバスの運行を評価したい。
(9) 文化財を指定し、又は指定を解除すること			○ 該当なし。	
(10) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること			○ 該当なし。	

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

子どもたちが、ふるさとで学び、育ちそして大人になった時ふるさと・みやこ町への愛着と誇りとともに、平和を愛する気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。

そのため、生命を大切に作る心を育てる教育の推進、「みやこ」ならではの文化を活かした活動や、学力の充実・向上、家庭の子育て支援などにより、次世代を担う子供を育てていきます。

また、生涯学習の推進に当たっては、住民一人一人のさまざまなニーズに応じて、住民が主体的に、“いつでも・どこでも・だれでも・なんでも”学ぶことができる学習の場づくりや情報提供を行います。

さらに、地域に伝わる歴史や伝統文化を継承し、活用するとともに、住民の主体的な文化・芸術活動を支援し、文化の薫り高いまちづくりに努めます。

※ 評価項目は、「みやこ町第3次総合計画」の基本計画に示された主要事業をもとに作成しています。

有 効 性	効 率 性	達 成 度	総 合 評 価
事業が目標達成に有効であるかを評価する。	事業が効率的に実施できたかを評価する。	計画通り達成しているかを評価する。	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評 価 判 断 基 準			
A 有効である	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね有効である	B おおむね実施できている	B おおむね期待どおり	B おおむね達成できた
C あまり有効でない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 子どもの教育環境の充実

○施策の方針

「自分のよさに気づき、なりたい自分を見つけ、志を持って成長していく子ども」を育てるため小中連携教育を推進し、国際理解教育の一環として英語教育の充実に努め、今後の多岐にわたる教育的ニーズに応える教育環境の充実に努めるとともに、学校施設の再編整備・充実、チームとしての学校体制の整備に努めます。また、子どもの成長を見守る環境を作り、子どもの安全確保に努めます。学校給食については、関係機関との連携の下、地場農産物の利用を進め、子どもの健康を守る取組を推進します。

主要施策 ①子どもの教育環境の充実に努めます

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
確かな学力の育成	確かな学力育成を図る教職員研修の充実	○ 若年教員研修を実施し、5年未満の教員、希望する非常勤講師等へ授業を通して研修を行った。 ○ 町教委主催で校長研修、教頭研修、主幹教諭・教務研修を実施し、学力向上を図る管理職の役割と具体的指導について研修した。 《課題・今後の方向性》 ○ 学校と連携して若年研修の充実に努める。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	多様な意識や経験をもつ人材が採用される傾向を踏まえた研修の充実に期待する。
	家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立	○ 小学校では、家庭学習に活用できる副教材を配布し、学力向上につなげていく。 ○ 各中学校区で家庭と地域との連携を実施している。 各中学校区で小中の状況に応じた取組を推進しており、小中で連携して、学校生活や基本的生活習慣に関するリーフレットを作成し配布して家庭との連携を図っている。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	家庭学習の定着に向けた具体的な方策が示すべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、学校行事を通して、保護者に参観を行い家庭との連携を図っていった。 ○ 個人に配布したタブレット等を活用し、登校出来ない児童生徒とのコミュニケーションや学習の支援を行った。 ○ 地域のボランティアによる各学校校区での登下校の指導を行った。 ○ 不登校の児童生徒数や状況を把握し、情報を学校に伝えることで、学校に注意を喚起し、「マンツーマン対応」や「福岡アクション3」の充実した実施を促し、家庭との連携強化を図った。 ○ 各学校で校区内の派出所や区長等との連絡会を通した児童生徒の状況把握や安全対策等の情報発信に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 中学校区で取組状況に差があるが学校の状況・児童生徒の状況・校区の状況が必要としている取組の充実を図る。 ○ 各中学校区での取り組みは定着しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により停滞していた家庭訪問や学校行事を通した家庭・地域との連携の充実を図る。					家庭学習に対する保護者の意識改革と協力を促す学校支援を継続してもらいたい。 コロナ禍以前の状態に戻すのが課題。特に運動会体育祭は地域と連携をするべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	学力向上推進事業 の効率的活用	○ 小学校では、国語、算数の補助教材を配布した。 全国学力調査、県学力調査の結果分析をもとに、各学校の学力向上担当者を中心に、学校の課題を明らかにし、朝のモジュール活動、昼のドリル活動の取組を通して基礎学力の充実を図った。 中学校では、年間を通して実力テストを実施し、京築地区、県全体との比較を行い、課題を明らかにして学力の定着及び指導の見直しへつなげていった。 ○ クラスター非常勤講師派遣事業で、黒田小・祓郷小・犀川小で対象となる若年教員を指名して研修を実施し、対象教員の授業力が向上した。 ○ K G G 訪問と英語イベントの実施からなる体験型英語学習を推進し、自分の考え、気持ちを話す力の育成を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 家庭と連携し、家庭学習の定着を図る。 ○ 若年教員の増加に伴い、指導の基礎・基本を身に着ける教育委員会指導主事による研修を継続・充実することが必要である。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	多様な人材や民間の教育施設等の人的・物的教育資源を活用した取組を評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	少人数学級等、多様な教育活動の推進	○ 児童生徒に対するきめ細かな指導を実施するため、町雇用教員の配置を行った。 35人学級実施のための常勤講師を配置 (小学校0名、中学校2名) 《課題・今後の方向性》 ○ 指導方法工夫改善教員及び小学校における専科教員の配置を進めていく。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	小学校の再編の時期の違いによって教育格差をつけないこと。また、学校再編は最重用課題として推進するべきと思われる。 国による地域特有の配分予算を活用した町雇用教員の配置がなされていることを高く評価したい。
	ICT教育の推進	○ 児童生徒1人1台のタブレット端末配備が完了し、さらに活用を進めるため、学校の意見を取り入れICT活用計画を策定した。活用計画の作成に伴い周辺機器整備計画の見直しを行った。 ○ 小学校へは国語と算数、中学校には国語、数学、理科、社会、英語の指導者用デジタル教科書を全学年分購入した。 ○ 小学校、中学校それぞれにICT支援員を配置し、授業での活用支援を行った。 ○ タブレットの家庭への持帰学習を支援した。 ○ 小学校に25台、中学校に4台、授業用モニターを配備した。 《課題・今後の方向性》 ○ タブレットを活用するため、持ち帰り学習等、学習指導を継続していく。 ○ ICT機器を活用した授業に関し、各校の活用の平準化を図る。 ○ 学校のICT環境の整備を進めていく。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	デジタル社会に取り残される事のないように、今後もICT活用の継続が必要と思われる。 ICT教育を推進する上での環境整備や教材等の整備が充実していることが高く評価できる。なお、ICT環境や教材整備と併せて教職員のICT機器の活用に関する資質・能力の向上を含めた支援の充実を期待する。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
豊かな心の育成	道徳の授業改善	○ 児童生徒が自らの考えを深めたりするために指導方法の改善に努めている。 ○ 福岡県道徳教育地域指導者研修会等研修に教職員を推薦し派遣することにより小中学校の道徳教育の充実を図っている。 ○ 教育活動全体で行う道徳教育を推進するために教育指導計画書に「全体計画」と「年間指導計画」を作成・記載し実践している。 《課題・今後の方向性》 ○ みやこ町若年教員研修で道徳の授業の改善に取り組む。 ○ 道徳教育地域指導者教員を中心に取組の継続・充実を図る。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	
	生徒指導体制の確立	○ スクールソーシャルワーカー1名が児童生徒の問題対応、保護者と教職員に対する支援・相談・情報提供を行った。 各学校延べ20日～41日 派遣 ※R5全国問題行動調査集計を参考 ○ 毎月の問題行動（不登校やいじめ等）の発件数・内容を把握し、各学校への個別指導や校長会議等での状況報告・指導を行い、各学校での生徒指導体制の充実を図った。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	必要な人材を確保するために、学校現場での状況把握をするべきと思われる。 不登校対策に対して、行政や大学、多様な人材を活用した支援を行っていることが評価できる。今後も引き続き、生徒指導上の重要課題である不登校対策やいじめ防止に向けた取組の充実を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 教育相談員1名やスクールカウンセラーを町予算で確保し、学校と連携して、校区内の巡回や児童生徒・保護者の教育相談、教職員の相談支援に活用した。 ○ 相談電話一覧のリーフレットや行橋市適応指導教室への入室案内、県立大学の「サポートセンター案内」等を配布し不登校児童生徒の居場所づくりを図った。 ○ みやこ町要保護児童対策地域協議会での情報交換の会議に年間6回、5名の職員・指導主事・教育相談員・SSWが参加し連携した。 《課題・今後の方向性》 ○ 学校の状況把握の取組の継続により指導体制の充実を図る。 ○ 専門家による相談体制の継続により相談体制の充実を図る。 ○ 引き続き関係機関や相談電話、相談機関、フリースクール等の情報提供により学校以外での相談や居場所づくりにも努める。					
	豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進	○ 読書リーダーとなる児童生徒を養成し、学校内の読書環境の充実と小・中学生期における読書活動の推進を図る。 ○ みやこ町小中学生読書リーダー養成講座を実施した。 実施日 令和5年8月29日～8月30日 参加者 小学校 13名 中学校 6名 《課題・今後の方向性》 ○ 読書リーダーの取組の継続及び充実を図る。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	図書館と十分な連携を行うべきで、生涯学習課での所管が望ましいと思われる。 放課後や昼休みを利用した図書室の充実等、学校図書司書と読書リーダーの活躍に期待したい。また、中央図書館と連携し、移動図書館等の活用を図ってほしい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	人権が尊重される 学校づくり	○ 学校の教育活動全体を通して実践するために、「人権教育」の「全体計画」「年間指導計画」を作成・実践して充実を図った。 ○ 「学校いじめ防止基本方針」を作成し、学校教育のアンケートを各学期1回以上実施し、教育相談や学級指導等と連動して、人にやさしい学校風土・学級風土の醸成を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 取組の継続と確実な実践を図る。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	
健やかな体の育成	体力向上に向けた 教育活動の推進	○ 小学校の体力・運動能力は全国平均以上、中学校は運動技能で女子が全国平均を下回っているため、その課題を把握し、問題解決に向けて重点的に取組んだ。 《課題・今後の方向性》 ○ 体力アップシート等を活用した体力向上の取組の継続・充実を図る。 ○ スポコン広場への参加を推進する。	B (B)	B (B)	B (B)	B (B)	女子の結果が全国平均を下回っている結果の考察に際して、測定方法の妥当性についても検証を行って、課題の整理と手立ての検討をお願いしたい。
	安全・安心な学校 給食の提供	○ 調理員へは年3回、学校の配膳担当者へは年度当初1回、衛生研修を実施した。 ○ 作業マニュアルに沿った作業を行い、随時見直しをすることで、衛生管理の徹底と調理技術の向上を図った。 ○ 温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられるように二重食缶を使用して配食した。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 地場産農作物の利用促進を図るために関係機関との連携し、学校給食小委員会で「生育状況」や「出荷時期」の情報交換を行うとともに、「みやこ町産野菜」の使用に努めた。 ○ 毎月19日は「食育の日」とし、地場産農産物を取り入れた学校給食を配食するとともに、「地場産物だより」を発行し、各家庭に配布した。また、毎日、給食の写真とその日の地場産物をフェイスブックで紹介した。 ○ 「給食カレンダー」を毎週発行し、毎日の献立内容について知らせたいポイントを掲載することで食育の推進を図った。 ○ 栄養教諭が学校を訪問し、「バランスのよい食べ方」をテーマに、食べ物には大切な働きがあることを指導し、嫌いな物も工夫して食べるように意識付けを行った。 ○ 生産者の努力や工夫が児童生徒に伝わるように、農産物の圃場で撮影した動画を「食育の日」の給食時間に各学校で配信した。 ○ 町立小・中学の校長代表、PTA代表、給食担当教諭、学校給食センター職員で構成する献立委員会を年10回開催し、年間献立計画に基づき作成した献立について協議した。 ○ 小学校に入学する新1年生の保護者に給食の目標や使用食材等を記載した「学校給食について」を配付し、家庭へ周知を行った。					農業担当課との連携による「食育計画」が必要と思われる。 地場産農産物の利用促進のために給食写真を活用したフェイスブックでの紹介を評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○「みやこ町食物アレルギー対応マニュアル」を活用して、食物アレルギーをもつ児童生徒が、「安心・安全」な学校生活を送ることができるように努めた。 ○学校との情報交換会を開催し、食物アレルギーをもつ児童生徒の状況等について情報共有することで、食物アレルギー事故の防止に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○今後も衛生面に注意を払い、おいしい学校給食を提供していく。 ○食物アレルギーをもつ児童生徒へ適切な対応が図られるように、さらに学校との連携や情報共有を図っていく必要がある。 ○栄養教諭による学校訪問を計画的に実施するとともに、引き続き給食の内容等が適切であるか検討していく。					食物アレルギー対策には十分な注意をするべきと思われる。 SNS等を活用した地場産農作物の利用促進や食育指導の充実が図られている。特に、給食の無償化についての行政としての取組を高く評価したい。
特別支援教育の推進	児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進	○児童生徒の実態や状況に応じた特別支援学級の設置による特別支援教育の充実を図った。 ○通常の学級に在籍する特別に支援を要する児童生徒の指導に向けた「通級による指導」を実施した。 ○通級による指導の充実を図るため、合理的配慮協力員3名を配置した。 ○適正就学に向けたきめ細かな教育相談を実施した。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	合理的配慮協力員の採用については、資格等について十分に注意するべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ みやこ町特別支援教育研修会を年1回、通級担当教員研修を1回実施した。また、年間を通して、通級担当教員と教育委員会事務局の協議会を実施し、指導の充実を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 障がいのある児童生徒の合理的配慮は、今後さらに充実を図る必要がある。 児童生徒の教育相談の充実と、就学の適正化につなげるため、家庭と学校が情報共有できるシステムづくりが必要である。					
	通級指導の充実	○ 犀川小・黒田小を拠点校として、町雇用の教員を3名採用し巡回による指導を実施し、児童生徒の移動時間や保護者の負担軽減を図りながら指導の充実に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 巡回指導内での指導内容の更なる充実を図る。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	町の予算を効果的に活用して人材確保を行ったり、保護者のニーズに応じたりしながら特別支援教育の充実に努めていることを評価したい。
信頼される学校づくり	地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進	○ みやこ町独自の不祥事防止の取組やアンケートを通して、教職員の学校のコンプライアンス意識を醸成し保護者や地域への対応の充実を図った。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	学校と教育委員会とのコミュニケーションを重視した取組を評価したい。なお、本取組が形骸化しないよう内容や実施方法の工夫・改善を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 学校の教育活動や課題等に係る説明責任を、管理職のみならず担任等の職員が適切に果たし学校通信や学級通信、口頭等の情報発信に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 家庭と学校が情報共有できるシステムづくりが必要である。					
	家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進	○ 地域学校協働活動の充実を図り、コミュニティスクールの推進を図る取り組みを進めた。 ○ 犀川小・中学校・伊良原小中学校にコミュニティスクール導入の検討を開始した。 《課題・今後の方向性》 ○ 令和6年度に豊津小・中学校への導入に向けて、計画を策定し研修を深める。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	導入にあたっては、学校と地域をつなぐコーディネーターの配置を検討するべきと思われる。

主要施策 ②子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
学校施設の効率的な維持保全	校舎の適切な維持補修	○ 長寿命化計画に沿って、老朽化した校舎等を適切に修繕、改修した。 トイレ改修工事（犀川中） 空調設置工事（豊津小、黒田小、勝山中、豊津中） 学校修繕件数 75件 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も老朽化が進むことが想定されるので、適切な修繕を行う。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	
統廃合を含む学校再編整備についての検討と学校再編の推進	学校の再編整備	○ 豊津地区学校再編整備事業に伴う新校舎建設工事が完了し、令和6年4月に新しい豊津小学校が開校した。 《課題・今後の方向性》 ○ 新校舎建設工事が完了し、今後は関連する外構工事を施工する。また、町立中学校及び勝山地区小学校の再編整備にあたり、候補地の選定作業等を行い統廃合を推進する。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	
保護者の経済的負担の軽減	生活困窮支援事業	○ 就学が困難であると認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助をする制度として就学援助を実施した。 認定者 小学校 208名 中学校 135名 《課題・今後の方向性》 ○ 申請率向上のため、周知を徹底する。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	保護者の経済的負担を軽減し、子どもの学びを支える積極的な取組の継続を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	奨学金貸付事業	○ 経済的な理由により、高校又は大学等への修学が困難な生徒に対して、修学費用として奨学資金の貸付けを実施した。 奨学奨励貸付金 2名 るるか奨学資金 1名 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も継続して貸付を行う。	A (一)	A (一)	A (一)	A (一)	

主要施策 ③家庭の教育力の向上を図ります

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり	家庭教育向上講習の実施	○ 家庭教育力向上を目的とした「家庭教育講演会」や「親子で学ぶ規範育成講演会」を実施し、共通の認識を深めるとともに具体的実践に取り組み、保護者としての自覚と生命尊重の意識が高まった。 《課題・今後の方向性》 ○ 実践内容の周知が図られており、保護者の主体的な取り組みに移行する必要がある。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	生涯学習課との連携が必要と思われる。 講演会の実施と併せて保護者の意識改革を促す手立ての検討が必要である。
豊かな感性をもった子どもの育成を図る体験教室の実施	保護者と連携した「鍛ほめプロジェクト」の実施	○ 人格的資質の育成を図るため、全校で取組内容を決定し保護者と連携して実践する「鍛えよう！ほめようプロジェクト」に取り組み、自尊感情や学ぶ意欲、人格的資質が高まった。 《課題・今後の方向性》 ○ 取組の継続と確実な実践を図る。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

2 社会教育の充実

○施策の方針

これまで行ってきた学習機会の提供を継続していくため、公民館活動や広報誌、ホームページなどを通じた生涯学習に関する情報提供の充実を図るとともに、各地域の優れた技術や経験をもった人材活用や社会教育団体などの活動を支援します。

主要施策 ①生涯学習環境の整備を進めます

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
情報提供の充実 とライフステージに応じた学習 機会の提供	高齢者大学、女性 学級、各種講座を 開催	○ 町広報誌・防災行政無線・ホームページ等を 活用し、高齢者大学、女性学級、文化健康講 座等で情報提供を行った。 ○ 高齢者大学を次の5地区で開催した。 ・ 勝山たちばな大学 年11回開催、申込者45名 対前年度3名増 ・ 犀川地区ふれあい大学 年9回開催、申込者59名 対前年度1名減 ・ 城井地区さわやか大学 年9回開催、申込者50名 対前年度6名減 ・ 伊良原地区ふれあい大学 年11回開催、申込者33名 対前年度9名増 ・ 豊津平成学級 年10回開催、申込者22名 対前年度1名増	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	参加者が固定化しないように 男女問わず対象者を広く募集 し、受講者の増加に繋げてほ しい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 女性学級を次の3地区で開催した。 ・勝山女性学級 年12回開催、申込者23名 対前年度2名減 ・犀川女性学級 年9回開催、申込者37名 対前年度2名増 ・豊津女性学級 年10回開催、申込者21名 対前年度1名増 《課題・今後の方向性》 ○ 多くの方に参加していただけるよう、広報誌やホームページ・チラシの配布方法等の工夫に努める。 ○ 申込者数が年々減少傾向にあるため、犀川地区の3つの高齢者大学を統合し、次年度から名称を「さいがわ学びの杜」とする。 ○ 社会教育指導員や地域活動指導員を中心に講座内容の充実を図り、多くの方が参加したくなるように、引き続き、魅力のある学級運営に努める。					効率化は必要であるが、希望者の受講の妨げとならないように注意するべきと思われる。
公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参加の推進	公民館活動の活性化を促進	○ 公民館活動を紹介し、広く参加者を募るため、講座や大学などの開催状況がわかる展示を行い、参加を促した。 《課題・今後の方向性》 ○ イベントに捕らわれずに公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参画を促せる方策を検討する。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	資格を有する社会教育主事の配置や開催講座の工夫をするべきと思われる。 各施設の社会教育指導員、公民館長間の連携による活発運営を期待したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
地域人材を活用した学習内容の充実	地域の人材の掘り起こし	○ アンビシャス広場の推進 地元ボランティアが中心となって行っている諫山校区アンビシャス広場の活動に、補助金の交付及び人的支援を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 地域ボランティア等指導者不足が見受けられるため、引き続き、事業の必要性を理解する人材の育成が必要である。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	公民館を拠点とした地域活動を活性化を図るべきと思われる。
文化施設を活用した学習活動の推進	健康で文化的な生活をするための講座を開催	○ 文化的な知る楽しさ、学ぶ喜びを感じる場を提供し、活発な公民館活動に繋げている。福祉・生きがいづくり・ボランティアに関することや公民館を幅広い年齢層に利用してもらうための講座等を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 講座をきっかけに自主サークルによる活動につながるよう推進していく。	A (一)	A (一)	B (一)	B (一)	文化施設での学習活動を支援する人材の確保と仕組みを検討するべきと思われる。
	博物館友の会運営事業	○ 歴史民俗博物館における各種学習事業 ・ 博物館友の会の運営と共同事業展開 令和5年度登録会員数141（前年度比+5） - 文化事業（作文コンクール） - 愛護活動（三重塔すす払い） - 研修事業（文化財研修／年2回）	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	
	博物館各種文化・人材育成事業	・ 博物館歴史講座 年間受講者数：711人（前年度比+14名） ・ ふるさと遺産フェスタ（旧称古墳まつり） 5年度実績：参加者数110人（前年度休止） ・ 文化遺産ボランティア（「豊み隊！」） 5年度登録者数33名（前年度比±0名）					文化遺産ボランティアの具体的な活用を検討するべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		《課題・今後の方向性》 ○ 活動団体の育成及び事業展開の工夫 ・ 友の会は活動や事業の情報発信に努め、新規会員、特に若年層の会員確保を目指す。 ・ 講座受講者が固定化する傾向の打開を企図して多様な学習メニューの開発や、未受講者層の関心を高める広報周知に努める。 ・ ボランティア活動についても同様の多様化や登録者の関心の汲み取りを工夫する。					学校の教育活動に、町の強みである博物館等の充実した物的教育資源を生かした取組の推進を期待する。

主要施策 ②図書館の利用を促進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
多様な資料の提供と快適な読書環境の整備	電子図書館導入事業	○ 本館（豊津）を図書館ネットワークの中心館とし、犀川・勝山分室及び移動図書館を管理運営しており、電子図書館を導入したことで、読書環境の充実を図ることができた。 ○ 本館・分室の役割を見据えた資料収集を行い、蔵書構成や内容については、評価、利用状況等を参考にして除籍、資料の更新にあたった。 《課題・今後の方向性》 多様な資料の提供と快適な読書環境の整備を推進するとともに、関係課や関係機関と連携を取りながら、各地域住民へのサービス提供に努める。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	広範な町域をカバーするため、中央図書館だけでは不足なので分室の在り方を人員配置を含めて再検討するべきと思われる。 電子図書館の活用を評価したい。
広報活動の充実と各種行事の開催	読書週間関連事業	○ 予約・リクエストの受付は減少したが、ホームページやフェイスブックを活用し、事業の周知に努めた。 ・ 令和5年度 5,162件 (令和4年度 5,478件) ○ 読書週間関連事業 ・ 講座「コーヒーの美味しい淹れ方」 参加者14名 ・ 読書エッセイ募集 応募者14名 ・ 図書館 de コンサート 育徳館高校管弦学部の実ミニコンサート 実施回数 4回 聴衆203名	A (A)	A (A)	A (B)	A (A)	SNSを活用した事業告知を評価したい。 読書に対する興味・関心が高くない方も参加したくなるような魅力的な講座を設定し、読書人口の拡大に努めていることを高く評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ブックリサイクル 除籍した資料を提供する常設コーナーを設置。 ○テーマ展示 季節やその時期の関心事をテーマに資料展示を実施。 ○テーマ展示 季節やその時期の関心事をテーマに資料展示を実施。 《課題・今後の方向性》 インターネットでのサービスを積極的に周知するとともに、レファレンス等における新たなサービスについても検討する。 引き続き、図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを企画、実施する。					
関係機関と連携した子どもの読書活動の推進	ブックスタート事業、子ども向けイベント事業	○第3次みやこ町子ども読書活動推進計画に基づき、関係機関や団体の連携・協力等、子どもの読書環境を整備した。 ○4か月、1歳半の赤ちゃんとその保護者に読み聞かせ体験行い、絵本を配付した。 ・配布者 120名 ○ブックスタートフォローアップ事業 「いっしょにあそぼう！わらべうた」 実施回数 2回 参加者 67名	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 子ども向けイベントの実施 ・ おはなし会 年齢別に読書ボランティアや図書館職員によるおはなし会を実施。 参加者 155名（前年度 218名） ・ 子ども読書まつり 特別展示「おいでよとしょかんどうぶつえん」、特別おはなし会「おはなしとうぶつえん」、としょかんビンゴ ・ 夏休みチャレンジ教室 「わくわく科学実験教室」参加者27名 「さいころパズルをつくろう」参加者16名 「ボードゲームで遊ぼう」参加者4名 ・ 園児対象図書館見学会 年長児対象の館内見学とおはなし会 開催回数7回、参加者117名 ・ 移動図書館 小学校 3,132冊（前年度 3,252冊） 保育所等 8,094冊（前年度 5,462冊） 《課題・今後の方向性》 ○ 関係課や関連団体と連携を取りながら、子どもの読書活動を支援する。 特に読書離れが顕著な中高生の読書活動の推進に努める。 ○ 親子が利用しやすい環境づくりと育児関連書や乳幼児向け絵本の充実などによる図書館の利用促進を図る。					読書習慣の獲得にとどまらない、家庭の教育力の向上に繋がる取組となることを期待する。

主要施策 ③図書館を活用した地域文化活動を促進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
人材の育成及び確保	読書ボランティア養成事業	○ 読書ボランティア養成事業 ・読書ボランティア養成講座交流会 2回 参加者 21名 《課題・今後の方向性》 読書ボランティア活動を支援するとともに、新たな人材の育成に努める。 また、ボランティアが町内各地で活動できる仕組みを検討する。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	人材を確保する養成事業の活用については計画的に取り組むべきと思われる。 新規参加者がボランティア活動につながることを期待したい。
地域住民による文化活動の推進	博物館との連携事業	○ 出張博物館 博物館所蔵品の一部を展示 ○ 博物館イベントに関連した特集コーナー 企画展の内容に合わせた資料展示 ○ ギャラリーの外部利用 2件 《課題・今後の方向性》 博物館の企画と連動した企画を実施するなど連携を図る。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	連携事業の実施を評価したい。今後も連携した企画に期待したい。

主要施策 ④歴史民俗博物館の事業振興と機能強化を図ります

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催	博物館運営事業 博物館企画展事業	○ 事務補助員を1名採用したことで、学芸員が専門業務に傾注できる体制を確保した。 ○ 自主企画展として、展示や関連事業を実施し、関心や評価を高めることが出来た。 ・「吉田兄弟物語」展（4～5月） ・「大分歴博出前展示」展（1～3月）	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	町の特色を生かした事業や地域を越えた関連施設との連携、担当者の業務負担に配慮しながら事業の充実を進めていることを評価したい。
	所縁館連携・支援事業	○ ゆかりのある博物館や施設・機関・地域と、資料や情報・人的資源等の交流・連携を行った。 ・ 漱石山房記念館（東京都新宿区） ・ 久留米市美術館（久留米市） 《課題・今後の方向性》 ○ 引き続き学芸員の事務負担軽減の工夫を続けると共に、世代交代を見据えた学芸職員の採用計画の具体化に努める。 ○ 自主企画事業について、住民の関心やニーズの汲み取りに努めるとともに、これまでに収集した資料を活用する。 ○ 自館発の交流事業（共同企画展や調査・公開事業等）の展開を目指す。					
歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信	館蔵資料等特別利用対応事業	○ 高知名度資料（小笠原文庫・小宮豊隆資料など）の貸出を含む特別利用に対応すると共に、各種レファレンスに積極的に対応した。 ・ 特別利用件数：39件（前年度比△1件） ・ レファレンス数：76件（前年度比△15件）	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	事業広報周知事業	○ 公式ホームページによる、町内や博物館の文化遺産・関連催事の情報発信力の増強に努めた。 ・ P V 数178,301（前年度比△177,349） 《課題・今後の方向性》 ○ 資料の利活用促進のための閲覧や情報検索システムの整備や、それに対応できる収納設備・専従員配置などの環境整備を目指す。 ○ 機能性の高いページへの改装と、情報更新頻度の向上や操作可能人員や体制の加増援等で、ホームページの閲覧や利用の増進を図る。					数多くの文化遺産に恵まれた町の魅力発信の継続を望む。

3 スポーツの推進

○施策の方針

スポーツ・レクリエーション活動は、住民相互の交流を生む機会として重要です。これまで行ってきたスポーツフェスタなどのイベントを今後も継続し、誰でもいつでも気軽に参加できるスポーツレクリエーション活動を推進します。また、スポーツレクリエーション活動の活性化を図るために指導者の資質向上に向けた研修会に取り組みむとともに、限られた施設を継続して利用できるように適正な管理を行います。

主要施策 ①住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進	海洋性スポーツの普及	○ 町広報誌等で海洋性スポーツレクリエーション体験教室、海洋クラブ員を募集し活動を実施した。 レクリエーション参加者数：31名 クラブ参加者数：10名（活動日数6日） 《課題・今後の方向性》 ○ 指導者等の人数が減少したことによる安全面を考慮し、教室1回あたりの参加人数は縮小しているが、経験豊富な業者に一部委託をすることにより、指導力の向上を図っていく。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	町の地理的特性を生かした取組として評価したい。
	スポーツ推進委員等によるニュースポーツの普及・推進	○ コロナ禍によりスポーツ教室が中止の間に、これまでの旧町単位での教室を見直し、月ごとに旧町単位でニュースポーツ教室を開催した。 《課題・今後の方向性》 ○ コロナ禍以降、参加者数が減少傾向にある。関係各課・機関等と連携し、引き続き、誰もが参加できるニュースポーツの普及・推進に努める。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ スポーツ推進委員も高齢化傾向にあるため、若手の推進委員の加入促進を図る必要がある。					
	スポーツフェスタの充実	○ コロナ5類移行により、総合開会式、各競技について全て実施した。 参加者数：1, 205名 《課題・今後の方向性》 ○ スポーツフェスタとして町民に認知されたので、今後もより多くの町民に参加してもらえよう、多様な競技種目や対象年齢を幅広く実施したい。	A (A)	A (A)	A (B)	A (B)	ニュースポーツを積極的に採用し、多くの町民が参加できるようにするべき。また、全町が一体感を持って取り組めるようなイベントを行うべきと思われる。
	アダプテッド・スポーツの取組 ※アダプテッド・スポーツ (adapted sports)… 障がい者や 高齢者、子ども、女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに作られた運動やスポーツ・レクリエーション全般のこと。	○ スポーツ推進委員を中心に障がい者や高齢者のスポーツの指導者講習会等に参加し指導者の養成に取り組んだ。 スポーツフェスタの一環で、アダプテッドスポーツの体験会を継続している。 《課題・今後の方向性》 ○ 障がい者向けのスポーツメニューへの対応力を強化し、長期的な視野に立って障がい者スポーツの普及振興を図る体制の構築に努める。 ○ スポーツ推進委員やスポネットTOYOTSUと連携して、障がいのある方を対象とするスポーツ教室の開催に取り組む。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	障がい者団体との連携を行うべきと思われる。 取組みに対して評価したい。 今後も障がい者や高齢者の参加が出来るよう担当課との連携を期待したい。
	ホームページの管理・運営事業	○ 施設管理状況の変更内容等の更新やイベント等の案内・結果等の情報提供を行っている。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		<課題・今後の方向性> ○ 今後とも迅速かつ的確な情報提供に努める。					
健康づくり、生きがいに 向けての運動機 会の提供	スポーツ教室、大 会の企画運営	○ さわやかマラソン大会（４００名）、町民 ウォーク大会（１２０名）を行い、競技ス ポーツ以外のスポーツの機会を提供した。 ○ 町立保育所の年長・年中園児を対象にしたリ ズム体操・水泳教室を実施した。 ２６回、４３名 ○ B＆G杯ソフトバレーボール大会やB＆G杯 剣道大会を実施した。 ○ スポネットTOYOTSUでジュニアプログ ラム年間３２回、一般・シニアの体力アップ 運動教室を年間４５回実施。水中運動教室を シーズン中１２回実施した。 <課題・今後の方向性> ○ 今後もスポネットTOYOTSUや体育協会 ・スポーツ推進委員等関係機関と連携し、よ り多くの町民が参加できるよう多種多様なス ポーツ・レクリエーション機会を提供してい く。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	豊津地区のスポーツクラブが 活動の中心となっているの で、公民館事業の充実等で工 夫が必要と思われる。

主要施策 ②競技スポーツを振興します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
競技スポーツの振興	体育協会を中心としたチャンピオンシップスポーツの振興	○ 体育協会の主催による、陸上、卓球、バレーボール、軟式野球、ソフトボール、水泳、ソフトバレーボール、サッカー、空手、剣道、バドミントン等のチャンピオンシップスポーツ活動を支援（大会助成、施設使用料の減免等）した。 ○ 京都郡大会や県民スポーツ大会などに町代表選手の派遣を行った。 ○ みやこ町さわやかマラソン大会兼京都郡ロードレース大会を実施した。 出場者数：400名 ○ 筑後地区で開催された福岡県民スポーツ大会に参加した。 出場者数：151名（京都郡単位） 《課題・今後の方向性》 ○ 引き続き、体育協会の組織体制強化及び活性化を図るとともに、チャンピオンシップスポーツへの支援体制について体育協会と協議していく。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	老若男女を問わず、夢や希望を育む事業としての充実と発展を期待する。

主要施策 ③指導者の育成・発掘を行います

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
スポーツ・レクリエーション指導者の育成	センターインストラクター養成事業	○ 指導者研修の対象者がいなかったため令和5年度は不参加。 《課題・今後の方向性》 ○ 海洋性スポーツ・レクリエーションの指導者づくりが課題である。今後計画的にB&G財団主催の指導者養成研修への参加を図りたい。	A (A)	B (A)	C (B)	B (A)	
スポーツリーダーバンクの構築と活用	スポーツリーダー育成事業	○ スポーツ推進委員やスポネットTOYOTSUを中心に指導者講習会等に参加し、指導者の養成に取り組み、各種団体からの依頼に対応した。 《課題・今後の方向性》 ○ スポーツリーダーになるべく人材育成及び組織構築が課題である。当面は、指導者の育成強化を図るため、現指導者に対して指導者講習会等への参加を促していく。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	スポーツ少年団との連携を図るべきと思われる。

主要施策 ④既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
複合的な活用を考えたスポーツ施設の活用	スポーツ施設の有効活用	○ 豊津運動公園内には第4種陸上競技場、体育館、プール、トレーニングセンターなどがあり、さわやかマラソン大会や隣接の菖蒲園などのまつりにも利用されている。豊津運動公園の樹木を伐採し、見通しの改善を行うことで、公園利用者のウォーキング等の利便性を図った。 ○ 産業祭や花火大会など、町開催イベントにおいて、犀川体育館や施設駐車場を使用した。 ○ 少年サッカーやソフトボール大会の京築、近郊大会の主会場として、犀川運動公園の野球場・多目的グラウンドを使用した。 《課題・今後の方向性》 ○ 関係各課・機関と協議検討を行い、複合的な施設の有効活用に努める。 陸上競技場は令和7年1月で第4種公認の期限を迎え、一旦公認の更新を見送る事とした。 今後は、共同運営の方法を探る事とする。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	
海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G財団）の利用促進	B&G施設の利用促進	○ 犀川BG艇庫（本庄池）でのカヌー・ヨット教室を実施した。 ○ 豊津B&G体育館（利用者31,720名：対前年度5,796名増）においては、学校行事・部活動などの利用（無料）、各種団体（体育協会、子ども会、老人会など）への使用料減免措置を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ プールを計画的に保全する必要がある。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	学校や各種団体との連携による事業推進の継続を望む。

4 地域文化の継承と振興を図る

○施策の方針

文化財を町の重要な資源として保存・継承するために、必要な整備や文化財保持・継承団体への支援を行うとともに、老朽化した施設・設備の再整備を図ります。また、文化協会の体制強化を図り自主運営に向けた取り組みを支援するとともに、各文化団体の自主性・独立性を推進するための必要な措置・支援を行います。

主要施策 ①町内の文化財の保存と活用を推進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
歴史公園の有効活用	歴史公園等管理・活用事業	○ 豊前国分寺・豊前国府跡公園は、除草等を地元区へ委託する協働管理・愛護体制で維持しているほか、「塔まつり」「ぐるっとみやこサイクリング」等の事業により、史跡の活用を行った。 ○ 永沼家住宅や古墳群等の文化財においても、地域と協働管理を行いながら有効活用と心がけ、本町の特質である、歴史・文化遺産の豊かさをアピールした。 《課題・今後の方向性》 ○ 経年劣化が進む文化財は、所有者等と連携・調整のうえ、有効な補助事業の活用や長期展望に立った管理計画の策定に努める。 ○ 手軽な公開や活用が困難な文化財は、対象のデジタル資料化等により、WEB上での公開や利用が可能となる環境整備を進める。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	博物館法の改正を踏まえ、更なる推進を期待したい。 数多くの文化遺産に恵まれた町の魅力発信に繋がる取組の継続と拡大を望む。 資料のデジタル化の推進に期待したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
国、県町指定文化財の普及啓発	指定文化財保存管理・活用事業	○ 解説板等整備指針に基づき、順次新設や修理、管理台帳化を進めた。 ○ 学習支援活動（ガイドなど）を通して、指定文化財をはじめとする町の自然・文化遺産の広報普及啓発に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 台帳による管理を進めるとともに、台帳に基づき、適宜新設や更新・再整備を行う。 ○ 学習支援活動は利用増傾向にあるが、業務に支障をきたしかねない面もあることから、ボランティアの積極的登用・活用が望まれる。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	ボランティアなど人材の育成が必要と思われる。

主要施策 ②遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
遺跡保護のための調査、記録	埋蔵文化財開発事前審査・調査事業 文化財記録保存調査報告書刊行事業	○ 各種開発事業に対応した保存対応の調査や立会・調整作業等を行った。 試掘・確認調査 1件（前年度比 0件） 工事立会 1件（前年度比△4件） 本発掘調査 3件（前年度比±0件） ※ただし整理調査のみ 照会件数 105件（前年度 △1件） ○ 発掘調査成果報告書刊行計画「第2次」に着手し、3件（①節丸西遺跡 ②馬場山遺跡 ③清四郎遺跡）の調査報告書を刊行した。 《課題・今後の方向性》 ○ 遺跡や開発への影響を最小限に留める調整を引続き進めてゆくとともに、分布地図等の埋蔵文化財の所在情報の把握や更新に努める。 ○ 計画に基づき引続き調査成果報告書の刊行に努めるとともに、成果普及のための広報資料制作やWEB公開に努める。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	
文化財の適切な整備	文化財保存活用・修理事業	○ 遺跡・文化財のうち、経年劣化や周辺を含めた環境改善等必要なものについて、補修や環境改善事業を行った。 ・ 遺跡等〈不動産系文化財〉 甲塚方墳（防護柵の設置） ・ 美術・工芸・典籍等〈動産系文化財〉 絹本著色当麻曼荼羅図（修理事業補助）	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	重要な文化財ばかりなので、管理計画を整備し、他の用途と併用するのではなく、史跡公園として活用するべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		<課題・今後の方向性> ○ 適宜必要な整備・修補事業を進めると共に、 総合計画となる「文化財保存活用地域計画」 や史跡別の管理計画の策定を目指す。					

主要施策 ③文化団体などの活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します

※令和5年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
文化財の保持・継承団体の支援	文化財保護団体等支援事業	○ 指定文化財保存団体や文化財愛護団体に対し、各種補助・支援・協力等を行い、文化財の保存・継承、顕彰愛護活動を支援した。 ・文化財保存団体 福岡県豊前神楽保存連合会 生立八幡宮山笠保存会 など ・文化財愛護団体 みやこ町郷土史研究会 豊津郷土史会 《課題・今後の方向性》 ○ 指定文化財保存団体や地域史研究団体等の文化財愛護団体に対し、補助金を含めた各種の支援を引続き行う。なお、民俗文化財については、急速な社会情勢の変化に鑑み、その保存・継承に向けた調査とともに映像等による記録保存事業の実施について検討する。	A (A)	A (A)	A (C)	A (C)	地域の伝統芸能の継承について、細心の注意をはらい、必要な支援を行うべきと思われる。 町の文化財保護への積極的な取組と昨年度からの達成度の伸びを評価したい。
文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取り組みの支援	文化芸術振興事業	○ 文化協会等が主催または町と協働しておこなう文化・芸術活動支援を実施した。 ・花しょうぶまつり記念発表会（6月） ・産業祭記念発表会（11月） ・文化芸能フェア（3月） ○ 文化協会の自主的な運営に向けた取組・活動等支援を実施した。 ○ 伝統文化(遺産)を活かした文化振興事業を実施した ・絵画コンクール（7～9月） 応募総数：1,051点（前年度比△2点）	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	サン・グレートみやこを住民のクオリティオブライフの実現のために活用を図るべきと思われる。 文化協会の衰退、高齢化が危惧されるので、現状の把握分析を行い新規活動団体の支援に期待したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		・作文コンクール（７～９月） 応募総数：５５点（前年度比＋４０点） ・三重塔少年少女俳句大会（１２～１月） 応募総数：７，７７９句（前年度比△１３０句） 《課題・今後の方向性》 ○文化協会が行う町民等への公開・還元を目的とする公益性の高い事業については引き続き支援・協力を進めていく。 ○文化協会の自主的な運営について、事例研究や情報収集を進めつつ、関係者協議・調整を進め、より良い運営形態を模索する。 ○文化芸術振興事業について、町独自の指針や公的な位置づけを明示する条例や規則等の制定について検討する。					他の関連事業等との連携による取組の充実を期待する。

令和6年12月5日

令和6年度 みやこ町教育委員会自己点検・評価（令和5年度対象）に対する外部評価委員会の所見

外部評価委員長 花島 秀樹（福岡教育大学教職大学院 特任教授）
委員 栗焼 憲児（教育行政経験者）
委員 長尾 優美子（教育行政経験者）

みやこ町教育委員会が令和5年度に取り組んだ活動について自己点検・評価をおこなったが、その点検・評価に対して外部評価委員会は3回に亙る委員会において慎重に審議した結果、以下の所見を述べる。

1. 外部評価の意義、並びにみやこ町教育委員会点検・評価の方法

『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正（平成20年4月施行）により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、情報公開の一環として広く市町村住民に公開することにより、住民に対して説明責任（アカウンタビリティ）を果たすことが求められることとなった。

みやこ町における自己点検・評価及び外部評価は今年で12年目を迎えた。今年度の点検・評価及び外部評価は、基本的には前年度までの内容及び方法をほぼ踏襲して、令和5年度のエ育委員会活動を、Ⅰ. 教育委員会の活動、Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務、Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務の3つに区分し、それぞれについて教育委員会の活動の進捗・達成状況等を点検・評価している。その中で、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に係る主要施策・主要事業、並びに各活動については、「みやこ町第3次総合計画(2021～2025年)の基本計画に示された主要施策・主要事業に対応し、「1 子どもの教育環境の充実」、「2 社会教育の充実」、「3 スポーツの推進」、「4 地域文化の継承と振興」の4つの施策から構成され、各々に主要事業が設定されている。

以上の各施策並びに事業の達成に向けて実施された活動（取組）に対して点検・評価を実施している。

各評価項目（取組）に対する点検・評価並びに外部評価にあたっては、「Ⅰ 教育委員会の活動」及び「Ⅱ 教育委員会が管理・執行する

事務」については、各取組の実施状況に対して、評価基準を「A.達成できた」「B.おおむね達成できた」「C.達成できなかった」の3段階評価として教育委員会が自己点検・評価したものを項目ごとに外部評価委員がその内容を確認し、別紙評価シートに評価を記載するとともに、以下の所見で総合評価を記載する形を採っている。また、「Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「有効性」「効率性」「達成度」の観点及びそれら3つの「総合評価」という4つの観点が設定されている。そして、「有効性」の観点から「A.有効である」「B.おおむね有効である」「C.あまり有効でない」、また「効率性」の観点から「A.実施できている」「B.おおむね実施できている」「C.実施できていない」、「達成度」の観点から「A.期待を上回る」「B.おおむね期待どおり」「C.期待を下回る」、最後に「総合評価」として「A.達成できた」、「B.おおむね達成できた」、「C.達成できなかった」のそれぞれ評価判断基準を設けた。

この評価方法による各項目の点検・評価の結果について、外部評価委員会は、2回に亘る聞き取りにおいて各担当部署に具体的な説明を求め、別紙評価シートにできる限り簡潔にその評価を記載するとともに、以下の所見において詳細に述べている。

2. 「教育委員会の活動」及び「教育委員会が管理・執行する事務」に対する外部評価

ここでは、上記「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」に係る取組について所見を述べる。

[1] 教育委員会の活動

(1) みやこ町教育委員会会議の運営、公開等

① 教育委員会会議の運営改善に関すること

会議は定例会11回が計画的に開催され、適切な運営がなされていると判断する。また、案件については、事務局から提案し、学校教育課長及び生涯教育課長が説明し、詳細については担当係長等が補足説明をするなど、綿密な提案と慎重な審議が行われ、教育委員会としての方針を示したことで学校が混乱することなく、教育活動を継続できたことは評価したい。

② 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信に関すること

これまでの外部評価において、教育委員会会議をはじめ、自己点検・評価や外部評価に関する情報の公開、並びに会議の傍聴を促す取組を積極的に推進してほしい旨を指摘してきた。そうした指摘に対応して、平成25年度以降、教育委員会開催についてホームページに掲載し周知を図るなどの努力が継続的に行われてきた点を評価する。今後も町広報誌等の利用及びホームページやSNS等による情報公開など、住民の積極的関与のための工夫を期待する。

③ 教育委員の自己研鑽に関すること

九州地区及び県内、京築地区で実施された研修会に計画的・継続的に参加していることが確認された。今後も、教育方法や教育内

容の急激な変化に対応できるように、研修会や研究協議会等への参加による知見（情報等）を確実にフィードバックし、みやこ町の教育行政や教育実践の改善・改革に結びつけるよう一層の研鑽・研修の充実を期待したい。

④ 学校及び教育施設に対する支援・条件整備に関すること

学校や地域の状況を把握するために積極的・定期的に学校及び所管の教育施設を訪問していることを評価したい。学校とのコミュニケーションを密にしながら、訪問後の指導内容や協議内容等を積極的公開し、町民へ学校や教育施設の状況の理解を促していきたい。

[2] 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) 本年度もみやこ町教育施策について審議・策定し、定期開催される校長会での説明を行った上で各学校に配付していることが確認された。今後も教育委員会の考え方及びその政策遂行について、各学校長が作成する学校経営要綱へ具体的に反映し、具現化することを期待したい。今後も継続するとともに、学校運営の在り方を交流し合う場と機会を設け、よりよい学校教育の在り方を確かなものにするように期待したい。
- (2) 教育行政の運営の必要上あるいは各学校及び地域の教育現状等への対応の必要性など、時代の変化や状況に伴った見直しが常に行われ、適切に諸規則の改正等のアップデートを行っていることを判断し、評価したい。
- (3) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事項では、学校のニーズに応えた適任者の選定がなされていると判断する。今後も、日常的な町内の人材情報の収集を行い、経験豊富で適切な人材を任命するよう心がけることを期待するとともに、適任者の選定に関するより厳選で公明なシステムが必要であり、質的向上を継続することを期待したい。
- (4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止することに関する事項では、小学校の再編に伴う説明を丁寧に行って地域住民に対する理解を促しながら学校の設置及び廃止が円滑に行われていることを評価したい。

3. 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に対する外部評価

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、「みやこ町総合計画」に則り4つに大別された大項目「子どもの教育環境の充実」、「社会教育の充実」、「スポーツの推進」、「地域文化継承と振興」であり、それぞれの大項目のもとにいくつかの主要施策、さらにその主要施策のもとに主要事業が示されている。点検評価は、主要事業の有効性、効率性、達成度を確認し評価したものである。以下は、教育委員会による自己点検評価に対して外部評価委員会が実施した評価の所見である。

＜1＞子どもの学習環境の充実

標記の主要施策のもとに、「子どもの教育環境の充実を図ります」「子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります」「家庭の教育力の向上を図ります」の3つの主要施策が設けられている。

（1）子どもの教育環境の充実を図ります

この主要施策のもとに、「確かな学力の育成」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」、「特別支援教育の推進」、「信頼される学校づくり」の5つの主要事業が示されている。

「確かな学力の育成」については、「確かな学力育成を図る教職員研修の充実」、「家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立」、「学力向上推進事業の効率的活用」、「少人数学級等、多様な教育活動の推進」、「ICT教育の推進」の5つの取組が、また、「豊かな心の育成」については、「道徳の授業改善」、「生徒指導体制の確立」、「豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進」、並びに「人権が尊重される学校づくり」の4つの取組が、そして、「健やかな体の育成」については、「体力向上に向けた教育活動の推進」、「安全・安心な学校給食の提供」の2つの取組が、「特別支援教育の推進」については、「児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進」、「通級指導の充実」の2つの取組が、さらに、「信頼される学校づくり」については、「地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進」、「家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進」の2つの取組がそれぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「確かな学力育成を図る教職員研修の充実」については、5年未満の若年教員や非常勤講師等の研修だけでなく、校長や教頭、主幹教諭・教務を対象とした研修会を計画的に実施していることを評価したい。今後は、近年多様な意識や経験をもつ人材が学校に採用される傾向を踏まえた上で、OJTを通じた人材育成のシステムが確立することを期待したい。
- ② 「家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立」については、小学校における家庭学習に活用できる副教材や小中が連携した基本的生活習慣に関するリーフレットを作成・配付するとともに、副教材の活用方法等も併せて具体化していることを評価したい。また、個人に配付したタブレットを活用した学習支援も評価したい。今後は、家庭学習の定着に向けた具体的な方策を示し、より効果的・効率的な取組が推進されることを期待したい。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止により停滞していた家庭訪問や学校行事を通じた家庭・地域との連携の充実を図るに当たり、コロナ禍以前の状態に戻すのかどうか検討することが必要である。特に運動会や体育祭の実施については、地域と連携しながら取組を進めてもらいたい。
- ③ 「学力向上推進事業の効率的活用」については、補助教材の配付や学力調査の実施、中学校による実力テストの実施、多様な人材や民間の教育施設等の人的・物的教育資源を活用した取組などを通して、学力の定着や指導改善につなげていることを評価したい。今

後は、課題となった指導内容への対応・対策を各学校の実態に応じて具体化していくことを期待したい。

- ④ 「少人数学級等、多様な教育活動の推進」については、国による地域特有の配分予算を活用した町雇用教員の配置がなされていることを高く評価したい。なお、小学校の再編の時期の違いによって子どもたちに教育格差が生じないように配慮しながら推進してもらいたい。なお、学校再編は最重用課題として推進すべき課題と考える。
- ⑤ 「ICT教育の推進」については、学校の意見を取り入れたICT活用計画を策定したり、それに応じて周辺機器整備計画を見直したりしてICT、特にタブレットを活用した学習指導を推進したことを評価したい。今後は、ICT活用の必然性を明確にするとともに、具体的な活用事例を公開し共有化していくことでより効果的・効率的な活用が推進されることを期待したい。また、教員個々の資質・能力等の教育現場の状況を勘案しながら、教育格差が生じないように配慮願いたい。
- ⑥ 「道徳の授業改善」については、県内の研修会へ意図的・計画的に参加・派遣を行い、計画的な人材育成が行われていることを評価したい。
- ⑦ 「生徒指導体制の確立」については、ソーシャルワーカーの支援・相談・情報提供が確実に実施されている。特に不登校対策に対して、行政や大学、多様な人材を活用した支援を行っていることを評価したい。今後も学校現場での状況把握を十分に行い、必要な人材確保を進めて、生徒指導上の重要課題である不登校対策やいじめ防止に向けた取組のより一層の充実を望む。
- ⑧ 「豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進」については、「子どもの読書推進計画」に沿って読書リーダー養成がなされていることなどが評価できる。今後は、放課後や昼休みを利用した図書室の充実等、学校図書司書と読書リーダーの連携及び中央図書館と連携した移動図書館等の活用を行うことが望まれる。なお、中央図書館と十分な連携を行って取組を推進するためには、本事業を生涯学習課で所管することが望ましいと考える。
- ⑨ 「体力向上に向けた教育活動の推進」については、特に中学校は運動技能で女子が全国平均を下回っていた結果の考察に際して、測定方法等の妥当性についても検証を行って、課題の整理と手立ての検討をお願いしたい。
- ⑩ 「安全・安心な学校給食の提供」については、地場産農産物の利用促進のために給食写真を活用したフェイスブックでの紹介や食育指導の充実が図られているとともに、給食の無償化についての取組を高く評価したい。今後も引き続き食物アレルギー対策には万全を期することをお願いする。なお、農業担当課との連携による「食育計画」策定及び推進について検討していただきたい。
- ⑪ 「児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進」については、人的配置が計画的・継続的に行われていることを評価したい。今後も教育的ニーズに応じた体制づくりのためにも、協力員等の指導力量のある人材確保と配置及び増員を今後も期待したい。さらには、就学前からの指導の引き継ぎを図るためにも、福祉課や子育て支援課等の他部署や幼稚園・保育所等との連携が必要であるため、そ

の連携のシステムを一層強化していきたい。なお、合理的配慮協力員の採用については、資格等について十分に注意するべきである
と考える。

- ⑫ 「通級指導の充実」については、町独自の予算を効果的に活用して人材確保を行ったり、保護者のニーズに応じたりしながら特別
支援教育の充実に努めていることを評価したい。なお、就学の適正化に向けた情報共有のシステムづくりを期待したい。
- ⑬ 「地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進」については、学校と教育委員会とのコミュニケーションを重視した取組を評価
したい。なお、本取組が形骸化しないよう内容や実施方法の工夫・改善を望む。
- ⑭ 「家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進」については、犀川小・中学校・伊良原小中学校にコミュニティスクール導入の
検討を開始したことを評価したい。なお、導入にあたっては、学校と地域をつなぐコーディネーターの配置を検討するべきであると
考える。

(2) 子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります

この主要施策では、「学校施設の効率的な維持安全」「統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進」、「保護者の経
済的負担の軽減」が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「学校施設の効率的な維持安全」については、老朽化した校舎等の計画的な修繕・改修が行われていることを評価したい。
- ② 「統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進」については、保護者や地域住民等の理解と協力のもと計画的な
統廃合を推進していることを評価したい。今後は、教育を受ける子どもたちに不利益や不公正な状況が生じない配慮を期待したい。
- ③ 「生活困窮支援事業」については、就学が困難であると認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助をする制度として就学援
助を実施していることを評価したい。今後も保護者の経済的負担を軽減し、子どもの学びを支える積極的な取組の継続を望む。

(3) 家庭の教育力の向上を図ります

この主要施策では、「保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり」、「豊かな感性を持った子どもの育成を図
る体験教室の実施」が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり」については、家庭教育力向上を目的とした取組が計画的
に実施され、保護者の意識改革を促していることを評価したい。今後は学校教育課だけの取組だけでは対応できない内容が含まれて
いるので、生涯学習課と連携した事業の推進が必要であるとともに、講演会の実施と併せて保護者の意識改革を促す手立ての検討を

お願いしたい。

- ② 「豊かな感性を持った子どもの育成を図る体験教室の実施」については、「鍛えよう！ほめようプロジェクト」への取組が効果をあげているため継続を期待したい。

<2>社会教育の充実

標記の主要施策のもとに、「生涯学習環境の整備を進めます」「図書館の利用を促進します」「図書館を活用した地域文化活動を促進します」、「歴史民俗博物館の事業促進と機能強化を図ります」の4つの主要施策が設けられている。

(1) 生涯学習環境の整備を進めます

この主要施策のもとに、「情報提供の充実とライフステージに応じた学習機会の提供」、「公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参加の促進」、「地域人材を活用した学習内容の充実」、「文化施設を活用した学習活動の推進」の4つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「情報提供の充実とライフステージに応じた学習機会の提供」については、各地区での計画的な開催及び内容の充実を評価したい。
今後は、受講者のニーズに応じた内容の検討を行うとともに、参加者が固定化しないように男女問わず広く募集することを望む。
- ② 「公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参加の促進」については、資格を有する社会教育主事の配置や開催講座の工夫、社会教育指導員、公民館館長間の連携による活発運営を期待したい。
- ③ 「地域人材を活用した学習内容の充実」については、今後コミュニティースクールの取組において地域人材の育成が必要となるため、人材育成プログラムを構築し、併せて公民館を拠点とした地域活動の活性化を図っていくことを期待したい。
- ④ 「文化施設を活用した学習活動の推進」については、学校との連携によるみやこ町の強みである博物館等の充実した教育的資源を生かした取組の推進を期待する。なお、文化施設での学習活動を支援する人材の確保とその仕組み、文化遺産ボランティアの具体的な活用を検討していただきたい。

(2) 図書館の利用を促進します

この主要施策のもとに、「多様な資料の提供と、快適な読書環境の整備」、「広報活動の充実と各種行事の開催」、「関係機関と連携した子どもの読書活動の推進」の3つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「多様な資料の提供と、快適な読書環境の整備」については、電子図書館の活用を評価したい。なお、広範な町域をカバーするため、

中央図書館だけでは十分な対応が難しいと思われるので、分室の在り方について人員配置を含めて再検討していただきたい。

- ② 「広報活動の充実と各種行事の開催」については、SNSを活用した事業告知や読書に対する興味・関心が高くない方も参加したくなるような魅力的な講座を設定して読書人口の拡大に努めていることを高く評価したい。
- ③ 「関係機関と連携した子どもの読書活動の推進」については、読書離れや文化離れが深刻な問題となっているため、読書習慣の獲得にとどまらない、家庭の教育力の向上に繋がる取組となることを期待する。

(3) 図書館を活用した地域文化活動を促進します

この主要施策のもとに、「人材の育成及び確保」、「地域住民による文化活動の推進」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「人材の育成及び確保」については、人材を確保する養成事業の活用については計画的に取り組むべきと思われる。なお、新規参加者がボランティア活動へつながることを期待したい。
- ② 「地域住民による文化活動の推進」については、連携事業の実施を評価するとともに、今後も博物館の企画と連携した企画に期待したい。

(4) 歴史民俗博物館の事業促進と機能強化を図ります

この主要施策のもとに、「博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催」、「歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催」については、みやこ町の特色を生かした事業や地域を越えた関連施設との連携、担当者の業務負担に配慮しながら事業の充実を進めていることを評価したい。
- ② 「歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信」については、数多くの文化遺産に恵まれたみやこ町の魅力を継続的に発信していくことを期待する。

<3>スポーツの推進

標記の主要施策のもとに、「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します」「競技スポーツを振興します」「指導者の育成・発掘を行います」「既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します」の4つの主要施策が設けられている。

(1) 住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します

この主要施策のもとに、「気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進」、「健康づくり、生きがいくりに向けての運動機会の提供」の2つの主要事業が示されている。

「気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進」については、「海洋性スポーツの普及」、「スポーツ推進委員等によるニュースポーツの普及・推進」、「スポーツフェスタの充実」、「アダプテッド・スポーツの取組」、「ホームページの管理・運営事業」の5つの取組がそれぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「海洋性スポーツの普及」については、みやこまち町の地理的特性を生かした取組が推進されていることを評価したい。
- ② 「スポーツフェスタの充実」については、ニュースポーツを積極的に採用し、多くの町民が参加できるような事業となることを期待する。
- ③ 「アダプテッド・スポーツの取組」については、本事業の推進を評価したい。今後は、担当課や障がい者団体と連携して、障がい者や高齢者の参加者が増加することを期待する。
- ④ 「健康づくり、生きがいくりに向けての運動機会の提供」については、豊津地区のスポーツクラブが活動の中心となっているので、公民館事業の充実等の工夫が必要と思われる。

(2) 競技スポーツを振興します

この主要施策のもとに、「体育協会を中心としてチャンピオンシップスポーツの振興」の主要事業が示されている。

- ① 体育協会を中心としてチャンピオンシップスポーツの振興については、体育協会主催の様々なスポーツ活動が実施されており、それを支援している成果が現れてきていることを評価したい。また、若男女を問わず、夢や希望を育む事業としての充実と発展を期待する。

(3) 指導者の育成・発掘を行います

この主要施策のもとに、「スポーツ・レクリエーション指導者の育成」、「スポーツリーダーバンクの構築と活用」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「スポーツリーダーバンクの構築と活用」については、指導者養成研修事業の充実を図るとともに、スポーツ少年団との連携を図りながら指導者の計画的な育成・発掘していくことを期待したい。
- (4) 既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します

この主要施策のもとに、「複合的な活用を考えたスポーツ施設の活用」、「海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G 財団）の利用促進」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G 財団）の利用促進」について、学校や各種団体との連携による事業推進の継続を望む。

<4>地域文化の継承と振興

標記の主要施策のもとに、「町内の文化財の保存と活用を推進します」「遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します」「文化団体などの活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します」の3つの主要施策が設けられている。

（1）町内の文化財の保存と活用を推進します

この主要施策のもとに、「歴史公園の有効活用」、「国、県町指定文化財の普及啓発」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「歴史公園の有効活用」については、資料のデジタル化や博物館法の改正を踏まえた更なる推進及び数多くの文化遺産に恵まれた町の魅力発信に繋がる取組の継続と拡大を期待したい。
- ② 「国、県町指定文化財の普及啓発」については、ボランティアなど人材の育成が必要であるとする。

（2）遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します

この主要施策のもとに、「遺跡保護のための調査、記録」、「文化財の適切な整備」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「遺跡保護のための調査、記録」については、発掘調査成果報告書刊行計画〔第2次〕に着手し、3件（①節丸西遺跡 ②馬場山遺跡 ③清四郎遺跡）の調査報告書を刊行したことを評価したい。
- ② 「文化財の適切な整備」については、早期の「文化財保存活用地域計画」の策定を期待したい。なお、重要な文化財ばかりなので、管理計画を整備し、他の用途と併用するのではなく、史跡公園として活用することを検討していただきたい。

（3）文化団体などの活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します

この主要施策のもとに、「文化財の保持・継承団体の支援」、「文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取り組みの支援」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「文化財の保持・継承団体の支援」については、みやこ町の文化財保護への積極的な取組と昨年度からの達成度の伸びを評価したい。
なお、地域の伝統芸能の継承について、細心の注意をはらい、必要な支援を行うべきとする。
- ② 「文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取り組みの支援」については、サン・グレートみやこを住民のクオリティオブライフ

フの実現のために活用を図るべきと考える。また、文化協会の高齢化による衰退が危惧されるので、現状の把握分析を行い新規活動団体の支援に期待したい。

4. 全体所見

これまで主要事業の各取組について評価してきたが、最後に全体所見として以下の3点を記しておきたい。

(1) 成果のある事業の継続・充実

「みやこ町第3次総合計画(2021～2025年)の基本計画に示された主要施策・主要事業に対応した、「1 子どもの教育環境の充実」、「2 社会教育の充実」、「3 スポーツの推進」、「4 地域文化の継承と振興」の4つの施策から構成された令和5年度の主要事業に関しては、いずれの項目においても概ね着実に施されていると判断する。また、いずれの取組も計画的に実施され、その検証も確実に行われている点を高く評価したい。

特に顕著な成果をあげている事業として、「子どもの教育環境の充実」での「確かな学力の育成」における若年研修の実施や「ICT教育の推進」における環境整備や教材等の整備、「健やかな体の育成」におけるみやこ町産野菜の使用や食育の日の取組として行われた給食写真を活用した地場産農産物のフェイスブックでの紹介、「特別支援教育の推進」における合理的配慮協力員の配置や巡回による通級指導等のみやこ町の独自予算を効果的に活用した人材確保、「信頼される学校づくり」における地域学校協働活動の充実及びコミュニティスクールの推進を図る取組、「学校施設や効率的な維持保全」における長寿命化計画に沿った修繕・改修や「保護者の経済的負担の軽減」における積極的な取組を指摘することができる。「社会教育の充実」では「図書館利用の促進」における図書館のネットワーク化及びホームページやフェイスブックを活用した事業告知、魅力ある読書週間関連事業の実施、「歴史民俗博物館の事業振興と機能強化」における学芸業務体制の構築や公式ページの運営・管理の充実によるみやこ町の特色を生かした事業や地域を越えた関連施設との連携がある。「スポーツの推進」では、「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進」における海洋性スポーツの普及や生きがいつくりに向けての運動機会の提供がある。さらに「地域文化の継承と振興」では、「遺跡・文化財の整備と広報普及の推進」における遺跡保護のための意図的・計画的な調査・記録の実施に伴い、3件(①節丸西遺跡 ②馬場山遺跡 ③清四郎遺跡)の調査報告書を刊行したことは有効な取組であり、今後も成果が大いに期待できる。

(2) 他課との連携及び情報の共有化による効果的・効率的な事業展開の継続・発展

現在、施策や事業については、みやこ町教育委員会内の連携によって、主要施策の決定や取組・事業名及び担当課の決定等が行われ、担

当各課を中心に必要に応じて首長部局の他課と連携して施策や事業の具体的な取組が行われている。

今後の各施策の実施の在り方として、単独事業としてのよさは残しつつも、他部署との連携・協働事業として展開するとより効果的・効率的な事業になる施策となることも考えられる。その中であって、必要不可欠なことは情報の共有化である。これは関連部署だけでなく地域住民に対しても同様のことが求められている。今後積極的に他部署や他の教育機関・施設との連携のビジョンとシステムの確立を行っていく中、ICT 機器や SNS といった手法を用いながら情報の共有化と事業の拡大・発展を期待したい。

（３）教育支援と歴史・文化遺産等に恵まれたみやこ町の魅力発信につながる取組の継続と拡大

少人数学級等の多様な教育活動の推進における、国からの地域特有の配分予算を活用した町雇用教員の配置や給食の無償化等、教育の充実と家庭への経済的支援についての積極的な取組は高く評価できる。また、数多くの重要な歴史・文化財等の計画的な保存管理事業の推進及び歴史・文化財資料のデジタル化や WEB 化の推進についても有効な取組である。今後もこれらの事業を推進し、みやこ町の教育の充実と魅力発信の継続と拡大を望む。

